

## 5.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

ここでは河川の自然度・健全度や河川管理との関わりが考えられるカヤネズミ、カジカガエルなどの確認状況を整理しました。なお、1～3 巡目調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を把握するための参考です。

### 【河らしいハビタット機能（哺乳類の確認状況）】

（両生類・爬虫類・哺乳類調査）

#### ● カヤネズミを自然分布域の 8 河川で確認

高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣するカヤネズミは、高水敷の河川管理の影響を受ける可能性があります。そこで、カヤネズミの確認状況の変化についてとりまとめました。

今回とりまとめを行った 12 河川のうち、カヤネズミは自然分布域外の北海道地方の常呂川、十勝川、東北地方の米代川、北陸地方の庄川で確認されませんでした。それ以外の 8 河川では確認されました。

また、また 2 巡目調査から 3 巡目調査で確認河川数は若干増加しました。

（資料掲載：5-9～5-10ページ、5-37～5-38ページ）

#### 1～4 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1 巡目調査 (52 河川)	2 巡目調査 (86 河川)	3 巡目調査 (88 河川)	4 巡目調査 (20 河川)
カヤネズミ	42 河川 〔80.8〕	76 河川 〔88.4〕	85 河川 〔96.6〕	20 河川 〔100.0〕

※1～3 巡目調査のデータは分析対象全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした。

※（ ）内は対象河川数を示す。

※〔 〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

※分析対象河川はカヤネズミの自然分布域内の河川を対象とした。

カヤネズミは本州の太平洋側では宮城県南部以南、日本海側では石川県以南、四国、九州、隠岐、淡路島、豊島、因島、対馬、天草諸島下島に主に分布します。高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣する本種は、高水敷の河川管理の影響を受ける可能性があります。

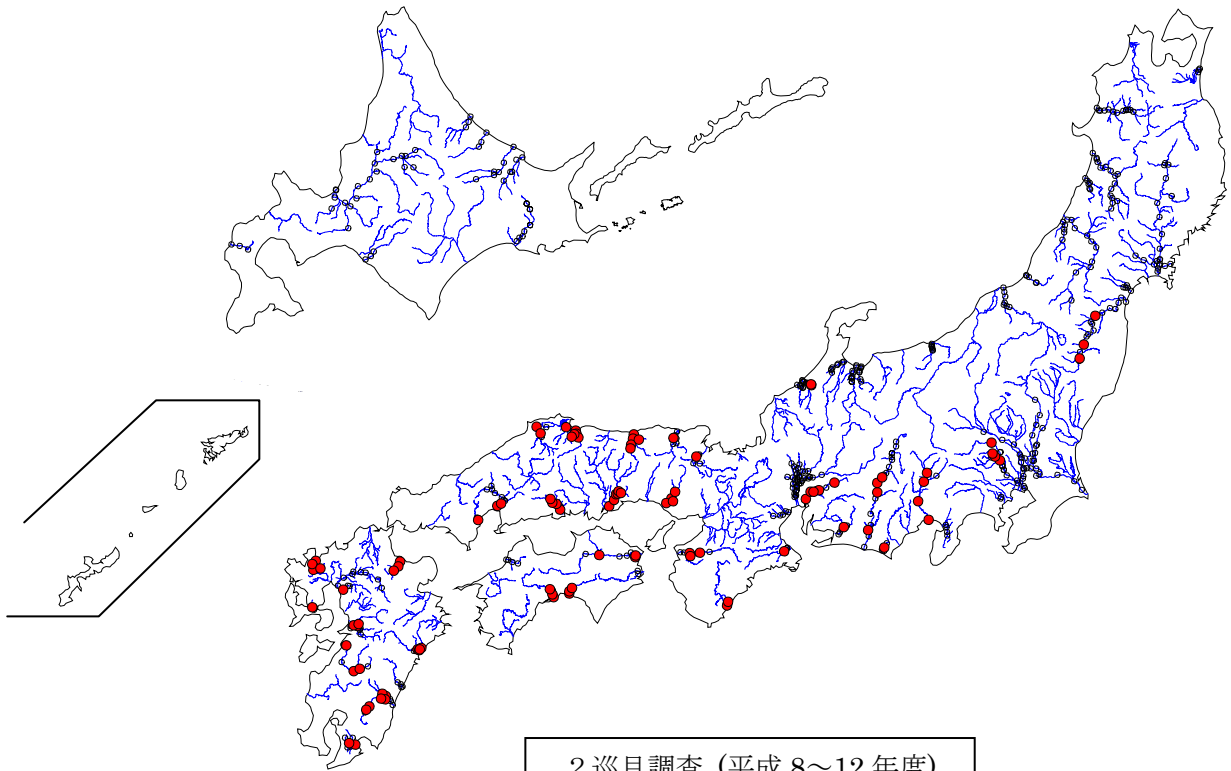
今回の調査結果をみると、カヤネズミは、自然分布域内の 8 河川で確認されました。

また 2 巡目調査から 3 巡目調査で確認河川数は若干増加しました。

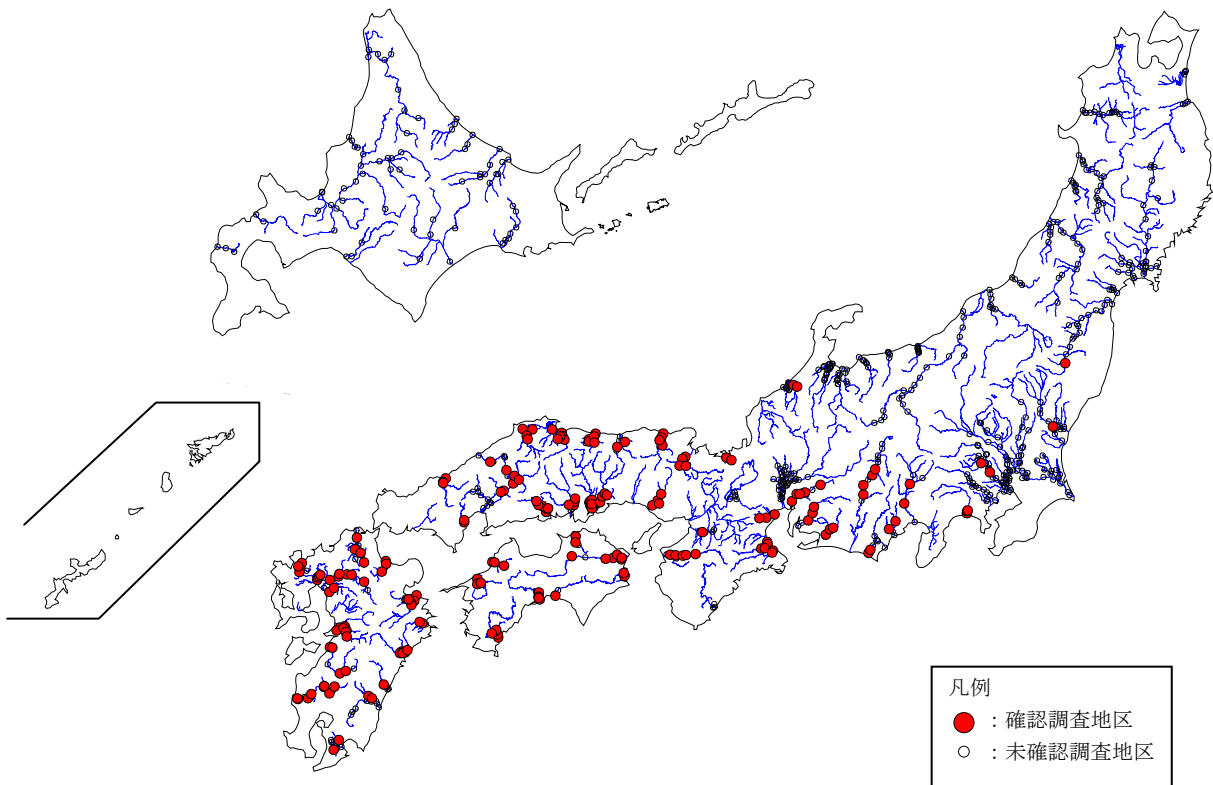
なお、カヤネズミは、高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣するため、これらの確認状況は、調査範囲の違い等の影響を受けると考えられます。

カヤネズミの生息は、河川の自然度・健全度や、河川管理による河川環境の変化に影響を受けます。今回は確認河川数の減少はみられませんでした。今後も引き続きモニタリングを続け、本種の生息状況を把握していくことが必要であると考えられます。

1 巡目調査 (平成 2~7 年度)



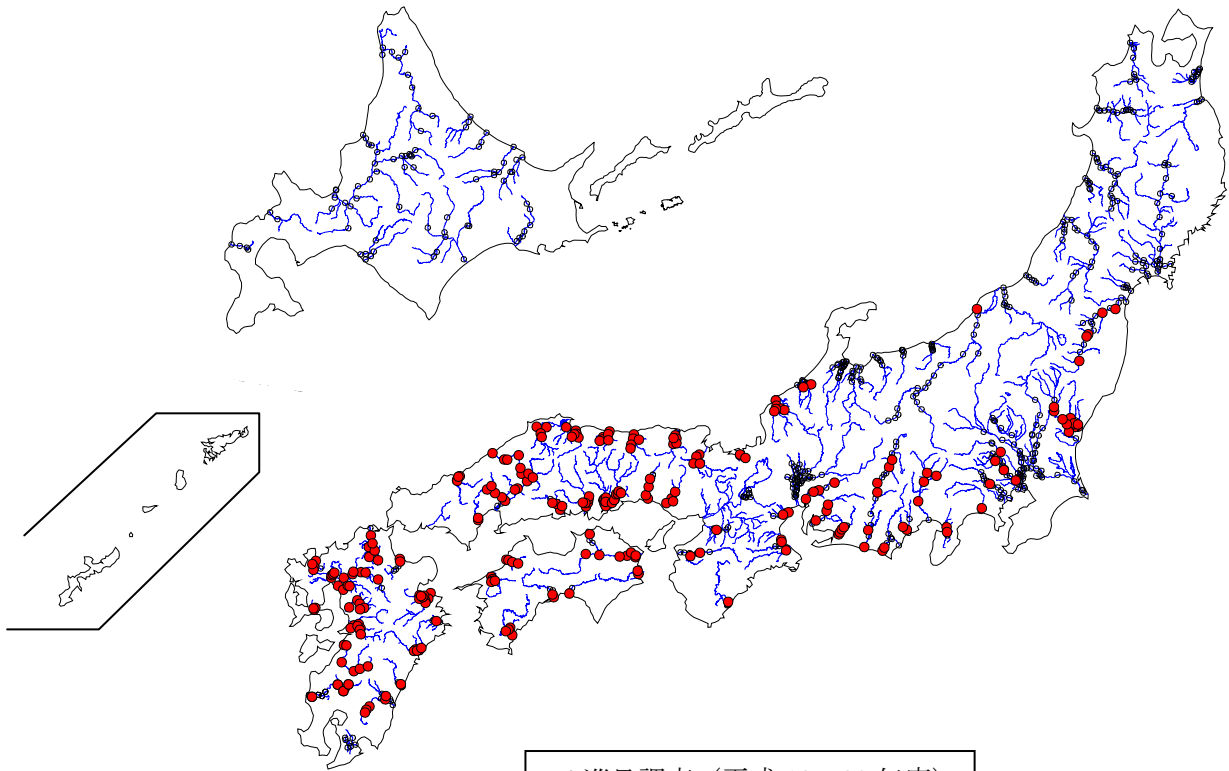
2 巡目調査 (平成 8~12 年度)



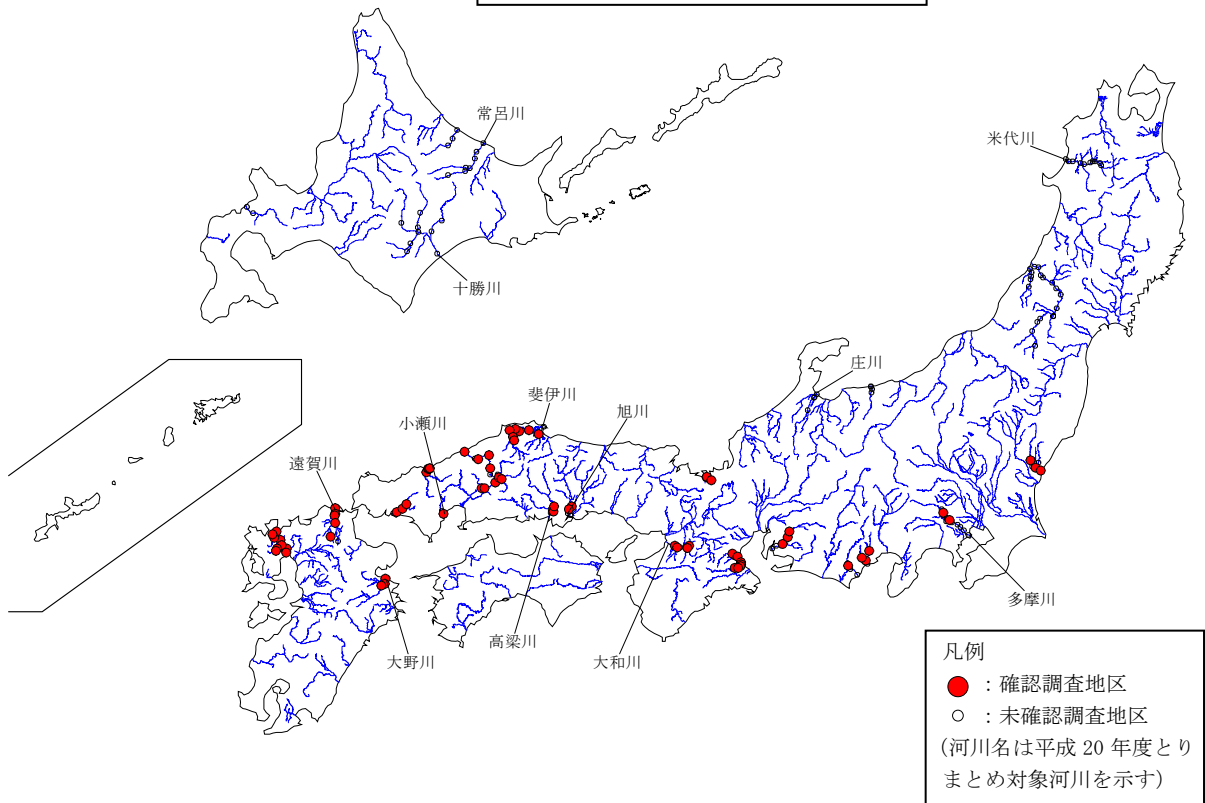
凡例  
● : 確認調査地区  
○ : 未確認調査地区

カヤネズミの確認された地域 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～20 年度）



凡例  
 ●：確認調査地区  
 ○：未確認調査地区  
 (河川名は平成 20 年度とり  
 まとめ対象河川を示す)

注) 4 巡目調査は、平成 18～20 年度の調査実施河川の結果を示している。

カヤネズミの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）

- **カジカガエルを自然分布域の6河川で確認**

カジカガエルは本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流に住み、流れの石の下に卵を産みます。このため、河川管理による河川環境の変化による影響を受ける可能性が考えられます。

今回とりまとめを行った12河川のうち、自然分布域内である東北地方の米代川、北陸地方の庄川、中国地方の斐伊川、小瀬川、九州地方の遠賀川、大野川の6河川で確認されました。

また、また2巡目調査から3巡目調査で確認河川数は若干増加しました。

(資料掲載:5-12～5-13ページ、5-37～5-38ページ)

### 1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (66河川)	2巡目調査 (106河川)	3巡目調査 (109河川)	4巡目調査 (26河川)
カジカガエル	25河川 〔37.9〕	40河川 〔37.7〕	50河川 〔45.9〕	15河川 〔57.7〕

※1～3巡目調査のデータは分析対象全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした。

※ ( ) 内は分析対象河川数を示す。

※ [ ] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

※分析対象河川はカジカガエルの自然分布域内の河川を対象とした。

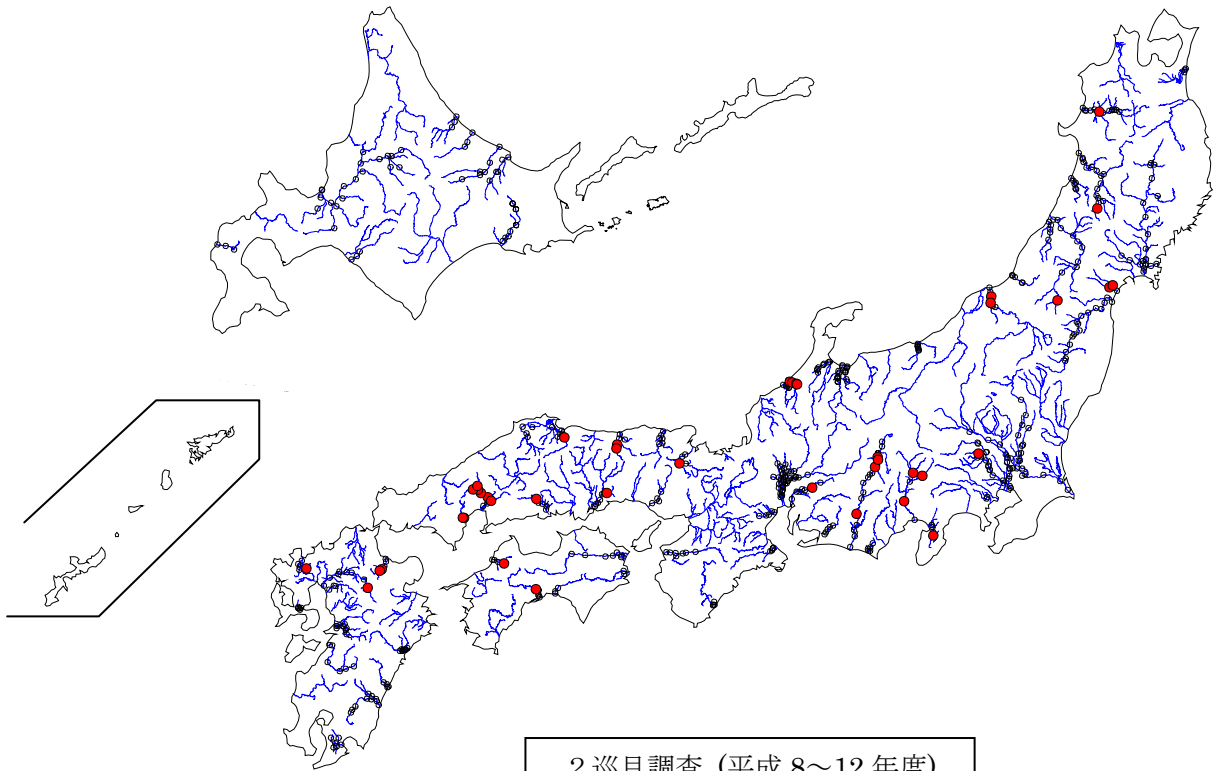
カジカガエルは本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流と周辺の樹林に住み、溪流中の石の下に卵を産みます。このため、河川管理による河川環境の変化による影響を受ける可能性が考えられます。

今回の調査では、カジカガエルは東北地方の米代川、北陸地方の庄川、中国地方の斐伊川、小瀬川、九州地方の遠賀川、大野川の6河川で確認されました。

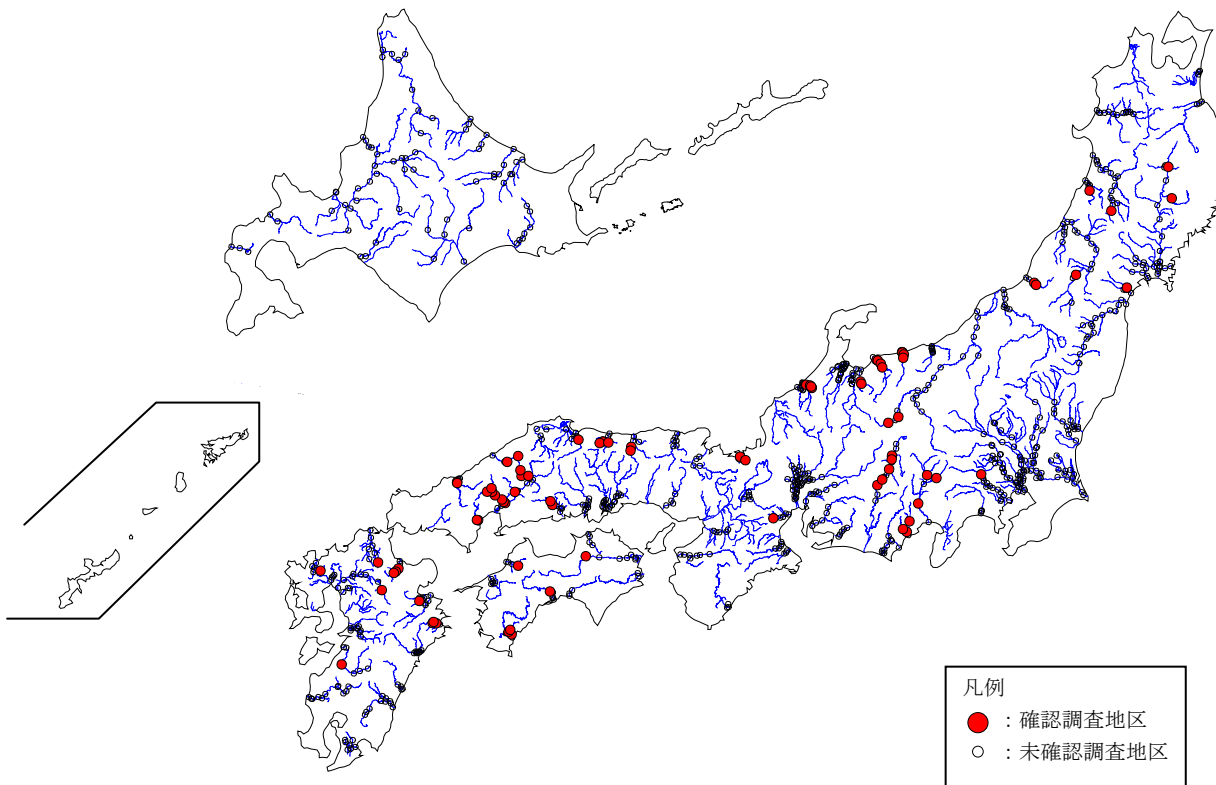
また2巡目調査から3巡目調査で確認河川数は若干増加しました。

カジカガエルは、河川管理による河川環境の変化により生息状況に変化が生じる可能性があります。今回は確認河川数の減少はみられませんでした。今後も引き続きモニタリングを続け、本種の生息状況を把握していくことが必要であると考えられます。

1 巡目調査 (平成 2～7 年度)



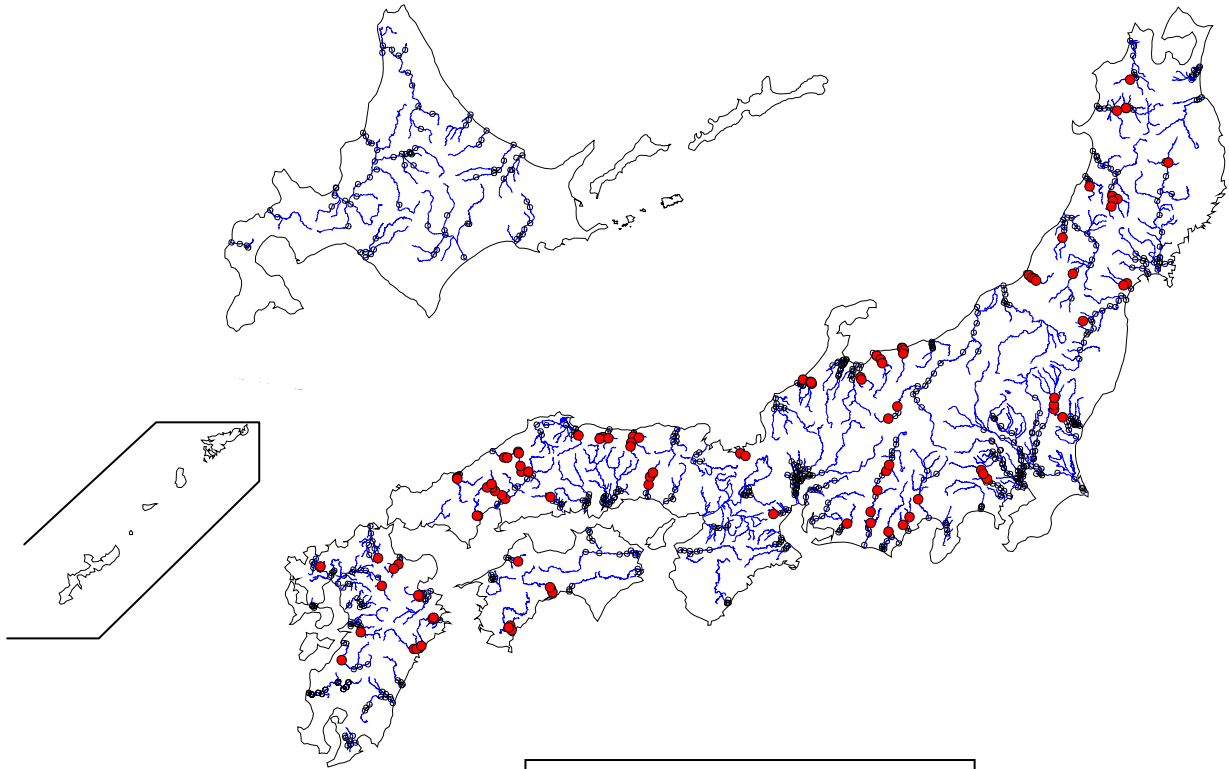
2 巡目調査 (平成 8～12 年度)



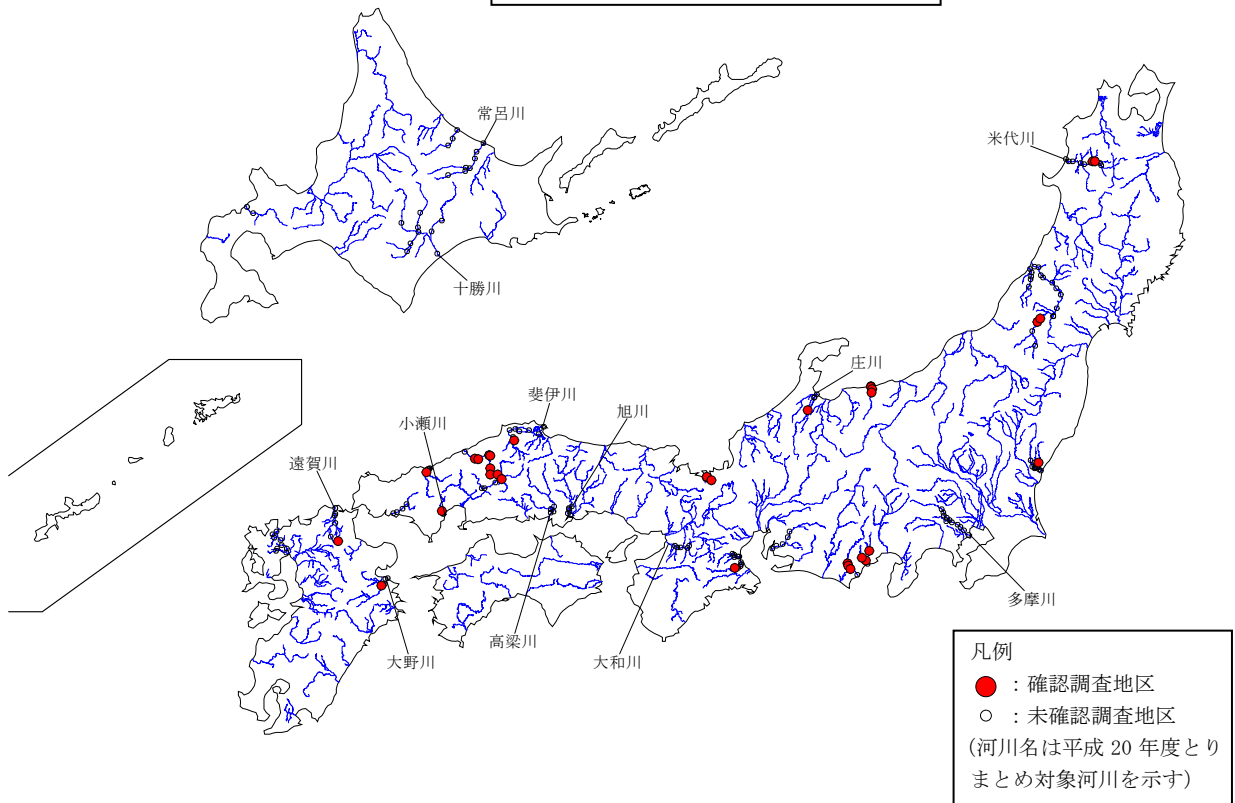
- 凡例
- : 確認調査地区
  - : 未確認調査地区

カジカガエルが確認された地域 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査（平成13～17年度）



4巡目調査（平成18～20年度）



注) 4巡目調査は、平成18～20年度の調査実施河川の結果を示している。

カジカガエルが確認された地域（3巡目調査、4巡目調査）